

別紙4 救急医療の提供の実績
(救急医療を提供する能力を有することを証する書類)

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況
(手術室 看護師)

No.	職種	氏名	勤務の態様	勤務時間	備考
1	看護師		常勤 専従	週40時間	師長
2	看護師		常勤 専従	週40時間	師長補佐
3	看護師		常勤 専従	週40時間	
4	看護師		常勤 専従	週40時間	
5	看護師		常勤 専従	週40時間	
6	看護師		常勤 専従	週40時間	
7	看護師		常勤 専従	週40時間	
8	看護師		常勤 専従	週40時間	
9	看護師		常勤 専従	週40時間	
10	看護師		常勤 専従	週40時間	
11	看護師		常勤 専従	週40時間	
12	看護師		常勤 専従	週40時間	
13	看護師		常勤 専従	週40時間	
14	看護師		常勤 専従	週40時間	
15	看護師		常勤 専従	週40時間	
16	看護師		常勤 専従	週40時間	
17	看護師		常勤 専従	週40時間	
18	看護師		常勤 専従	週40時間	

別紙 4 救急医療の提供の実績

(救急医療を提供する能力を有することを証する書類)

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況
(救急、放射線など外来及び人工透析室 看護師)

No.	職種	氏 名	勤務の態様		勤務時間	備考
1	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	師長
2	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	師長補佐
3	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
4	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
5	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
6	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
7	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
8	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
9	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
10	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
11	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
12	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
13	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
14	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
15	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
16	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	
17	看護師		常勤	非専従	週 40 時間	

別紙4 救急医療の提供の実績

(救急医療を提供する能力を有することを証する書類)

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況
(救急、放射線など外来及び人工透析室 看護師)

No.	職種	氏名	勤務の態様	勤務時間	備考
18	看護師		非常勤 非専従	週30時間	
19	看護師		非常勤 非専従	週35時間	
20	看護師		非常勤 非専従	週31.25時間	
21	看護師		非常勤 非専従	週30時間	
22	看護師		非常勤 非専従	週35時間	
23	看護師		非常勤 非専従	週30時間	
24	看護師		非常勤 非専従	週38.75時間	
25	看護師		非常勤 非専従	週35時間	
26	看護師		非常勤 非専従	週36.25時間	
27	看護師		非常勤 非専従	週25時間	
28	看護師		非常勤 非専従	週33.75時間	
29	看護師		非常勤 非専従	週30時間	
30	看護師		非常勤 非専従	週30時間	
31	看護師		非常勤 非専従	週30時間	
32	看護師		非常勤 非専従	週37.5時間	

別紙4 救急医療の提供の実績

(救急医療を提供する能力を有することを証する書類)

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況
(薬剤師)

No.	職種	氏名	勤務の態様		勤務時間	備考
1	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	薬剤部長
2	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	薬剤副部長 当直勤務有
3	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	当直勤務有
4	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	当直勤務有
5	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	当直勤務有
6	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	当直勤務有
7	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	当直勤務有
8	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	当直勤務有
9	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	当直勤務有
10	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	当直勤務有
11	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	当直勤務有
12	薬剤師		常勤	非専従	週40時間	当直勤務有

別紙4 救急医療の提供の実績

(救急医療を提供する能力を有することを証する書類)

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況
(放射線技師)

No.	職種	氏名	勤務の態様	勤務時間	備考
1	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	中央放射線部部長
2	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
3	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
4	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
5	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
6	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
7	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
8	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(休日)勤務有
9	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
10	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
11	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
12	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
13	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
14	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
15	放射線技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
16	放射線技師		非常勤 非専従	週27.5時間	交替制(夜間・休日)勤務無

別紙4 救急医療の提供の実績

(救急医療を提供する能力を有することを証する書類)

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況
(臨床検査技師)

No.	職種	氏名	勤務の態様	勤務時間	備考
1	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	中央検査部部長
2	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
3	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
4	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
5	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
6	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
7	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
8	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
9	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
10	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
11	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
12	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
13	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
14	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
15	臨床検査技師		常勤 非専従	週40時間	交替制(夜間・休日)勤務有
16	臨床検査技師		非常勤 非専従	週20時間	交替制(夜間・休日)勤務無
17	臨床検査技師		非常勤 非専従	週25時間	交替制(夜間・休日)勤務無

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	6 床
専用病床	6 床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

3 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
救急医療室	149.35㎡	(主な設備) 無影灯、医療ガス設備、バイポーラ凝固器、挿管セット他	可
放射線検査室	857.16㎡	(主な設備) 放射線画像システム、放射線情報管理システム、MRI、CT、RI、X線骨密度装置、放射線治療装置、乳房X線装置、多目的血管造影装置、心臓カテーテル装置他	可
臨床検査室	172.55㎡	(主な設備) 生理検査システム、脳波室監視カメラ、自動採血管口ボ他	可
内視鏡室	138.75㎡	(主な設備) 内視鏡ファイリングシステム、内視鏡洗浄装置、超音波診断装置、消化管内視鏡セット、リカバリ用リクライニングチェア他	可
手術室	901.41㎡	(主な設備) 麻酔管理システム、術野ビューワー、無影灯、電動油圧式手術台、顕微鏡、シーリングペンダント他	可
特定集中治療室	110.52㎡	(主な設備) 救急蘇生装置(気管内挿管セット、人工呼吸装置等)、除細動器、ペースメーカー、心電計、ポータブルエックス線撮影装置、呼吸循環監視装置 他	可

4 備考

平成26年3月25日付け静岡県告示第234号により救急病院等の告示。

- ①西遠地区二次救急輪番制病院
- ②救急医療協力申出機関

(注) 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。

既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記載すること。

5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	3,642人 (1,642人)
上記以外の救急患者の数	2,903人 (517人)
合計	6,545人 (2,159人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	13回
(2) (1) の合計研修者数	674人

(注) 1 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(注) 2 (2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

- ア 研修プログラムの有無 有・無
 イ 研修委員会設置の有無 有・無
 ウ 研修指導者

研修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 項
鈴木 茂彦	医師	形成外科	病院長	42年	
	医師	呼吸器内科		4年	
	医師	呼吸器内科		10年	
	医師	泌尿器科	部長	31年	
	医師	脳神経外科	部長	24年	
	医師	内分泌代謝内科	部長	5年	
	医師	総合内科	副長部長	11年	
	医師	循環器内科	部長	29年	
	看護師		認定看護師	20年	
	看護師		看護師長	37年	
	理学療法士			4年	
	看護師		看護師長補佐	21年	
	看護師		看護師長補佐	29年	
	看護師		看護師長補佐	20年	

(注) 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
図書室	67.65㎡	(主な設備) スライダックス・図書文献検索システム・椅子・机・蔵書・パソコン
大会議室	113.71㎡	(主な設備) 映像音響システム(プロジェクター、ロールスクリーン、マイクなど)、椅子、机、暗幕
会議室1	21.54㎡	(主な設備) カンファ用液晶ディスプレイ、椅子、机、シャーカステン
会議室2	16.46㎡	(主な設備) カンファ用液晶ディスプレイ、椅子、机、シャーカステン

別紙6 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

管理責任者氏名	病院長 鈴木 茂彦
管理担当者氏名	総務課長 XXXXXXXXXX 医事課長 XXXXXXXXXX

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		【日誌等】 書庫 【診療記録等】 電子カルテサーバ 診療情報管理室 カルテ庫	【日誌等】 日付毎に管理 【診療記録等】 1患者1ID付与 電子的に格納
病院の 管理及 び運営 に関する 諸記 録	共同利用の実績	地域医療連携室	
	救急医療の提供の実績	医事課	
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	医事課 総務課	
	閲覧実績	医事課 総務課	
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(国様式例第17)

別紙7 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧責任者氏名	病院長 鈴木 茂彦
閲覧担当者氏名	(診療録関係) 医事課長 (その他財務諸表関係) 総務課長
閲覧の求めに応じる場所	(診療録関係) 医事課相談室 (その他財務諸表関係) 総務課小会議室
閲覧の手続の概要 (診療録関係) 原則本人による申請に基づき開示を行っている。 本人作成の申請書を受理の後、院内決裁の後開示となる。 (財務諸表等) 独立行政法人通則法(平成十一年七月十六日法律第百三号)第38条に基づき財務諸表をホームページで公表するとともに、独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成十三年十二月五日法律第百四十号)及び独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律(平成十五年五月三十日法律第五十九号)に基づき開示を行っている。	

前年度の総閲覧件数		33件
閲覧者別	医師	0件
	歯科医師	0件
	地方公共団体	0件
	その他	33件

別紙8 医療法施行規則第9条の19の委員会の開催の実績

委員会の開催回数	2回
委員会における議論の概要	
<p>平成30年度 第1回浜松労災病院地域医療支援病院運営委員会</p> <p>開催日時 平成30年11月7日(水) 19:00~19:30 開催場所 浜松労災病院6階大会議室 委員総数 14名 出席委員数 12名</p> <p>議事内容</p> <p>1 平成30年度上半期業務実績報告 ア 開放型病院診療状況比較 イ 依頼検査実施件数(共同利用) ウ 紹介率の推移 エ 逆紹介率の推移 オ 入院における紹介患者比率 カ 地域の医療連携研修会・講演会</p> <p>2 意見交換 【病院の意見及び対応状況概要】○外部委員 ●当院委員</p> <p>○9部会としては困ったときには労災病院を頼りにしている。私は神経内科をやっているが、労災病院に神経内科医がいないことは、開業医にとって検査が出来ずに困る症例をお願いする病院がないこととなりつらい状況である。ぜひ神経内科医を入れて欲しい。</p> <p>●鈴木院長浜松労災病院は40年前にすでに神経内科の常勤医を配置していた。その後年々減少し、数年前から1人体制であったが昨年退職された。院長の交代持期と重なることとなり、京大病院にも派遣依頼している。</p> <p>○入院1日平均患者が減少したようだが、どのようなことが要因なのか。</p> <p>●神経内科及び整形外科の患者数が大きく減少している。9月10月は患者数が回復傾向にあるのは、整形外科の患者数が増えてきたことによる。</p> <p>●整形外科は4-9月の体制の変化はなかったがパフォーマンスがあがらなかった。9月の最後の3連休あたりから去年並みに戻ってきており、10月は前年度より増えている。神経内科は常勤がいないことにより入院患者が確保できなかった。さらに、消化器内科の常勤が1人減ったことから対前年度に比較して患者数が減少している。消化器内科が増えないと外科の患者数にも影響するので、消化器内科の医師確保をしないと厳しい</p>	

状況である。

- 救急に関して、これまで重症熱傷の患者の受け入れの体制が取れていなかったが、私が重症熱傷の専門医であることから、9月から受け入れの体制を整えた。外科及び形成外科が協力して受け入れていく。

手指の切断などの症例に関して、整形外科の新任医師が理解していなかった面もあったが、当院には手外科の専門医がいるので今後は整形外科と形成外科が協力して受け入れていく

- 労災病院には日頃より救急医療に対しご理解いただいて感謝している。今年の4月に浜松市の救急隊は23隊の陣容となっている。

今年10月までの間に労災病院に救急車受け入れの電話したうち、300強の断り事例があった。断りの内容は様々であるが救急隊としては近いところで早期に病院に搬送したいと考えている。今後とも救急行政にご理解いただいて協力をお願いしたい。

- 先週から若い医師にヒアリングを行っており、改めて救急受入について指示している。

- 当院でも救急車の受入件数について集計している。院長も就任当初から救急を断らないことを医師に指示しているが、新任医師等に浸透していなかった面もある。数字だけみると救急車の受け入れ件数は去年より増えているので、依頼件数自体が増えていると考えている。救急に関しては院長も私もこれまでずっと重視しており、救急を断らないことについては、浜松市内における当院の存在価値であると認識している。逐一院長も毎日救急搬送状況を把握しており、今回の話は運営会議で医師に伝える。

4月から遠州病院が救急科を設置し、常勤医師を2人配置しているが、遠州病院への搬送件数は増えているのか。

- 遠州病院への依頼件数は変化無い。救急自体は右肩上がりに件数が増えている。遠州病院に救急科はあるが、当直などの受け入れ条件がある。

- 脳神経外科は10月から1名常勤が増えたので、脳血管疾患の受け入れについては柔軟に対応できる。

- 頼りがいのある労災病院と思っているので、今後ともよろしく願いたい。

- 労災病院で救急を断らないと認識していたので、300件断っていることを聞いてショックを受けた。受け入れるためにはスタッフの充実が大事だと思うので、市民の立場からはスタッフの充実を願う。

全国的に医療機関の勤務状況がかなり厳しいと思うので、スタッフの過労などの対策については、労災病院こそしっかりしてほしい。また、鈴木院長が新しく来られたので、救急患者だけでなく全国から患者を集められる先生であることや浜松労災病院の得意なことを宣伝して欲しい。

- 時間外の受け入れに関して快く受けていただいている。手術に入っていたり、午前中の診療に間に合わない場合など受けていただけない場合もあるが、比較的時間外にも受け入れていただき感謝している。

平成30年度 第2回浜松労災病院地域医療支援病院運営委員会

開催日時 平成31年3月13日(水)19時~

開催場所 浜松労災病院6階大会議室

委員総数 14名

出席委員数 13名

議事内容

- 1 平成30年度下半期業務実績報告
 - ア 開放型病院診療状況比較
 - イ 依頼検査実施件数(共同利用)
 - ウ 紹介率の推移
 - エ 逆紹介率の推移
 - オ 入院における紹介患者比率
 - カ 地域の医療連携研修会・講演会

2 意見交換

【病院の意見及び対応状況概要】 ○外部委員 ●当院委員

○9部会は地元の労災病院を頼りにしている。良い意味で使い勝手の良い病院になってほしい。

○磐田市では磐田市民病院に救急車が3台入った後の受け皿として労災病院を頼りにしている。安心して任せられる病院と思っている。

○今日は山中健康福祉部長の代理で参加している。労災病院の業務報告を聞いたが、地域医療の要として感謝している。

○労災病院には日頃より多くの救急患者の受入れをしていただき感謝している。

○市民の立場から、多くの救急患者を受入れていただきありがたいと思う。浜松市の救急がうまく回っていると感じている。業務報告では、共同利用件数が下がっていることが気にかかる。

●当院でも患者アンケートの回答を見ると欠けているところが多いと感じている。職員の官僚的な対応や、サービス精神が少なく、丁寧な説明に欠ける医師も見受けられる。患者に愛されるとともにレベルの高い病院を目指す。

また、来年度は耳鼻咽喉科外来を週2日、神経内科外来を月2回から毎週火曜日に実施することとしている。小児科も再開したいと考えている。

さらに、浜松市医師会の第9部会とは懇親会を開催しているが、当院として近隣南区や磐田市南西部等の地域の先生方とも懇親を深めたいと考えており、病診連携懇談会を4月25日に開催する予定である。

本日お集まりの先生方を核として、近隣の先生方に参加を募りたい。浜松EASTよりも医師同士の懇親を深められると考えている。

○懇談会は良いと思う。浜松EASTでは興味があるテーマの話を聞きたいので希望を聞いてほしい。

●浜松EASTのテーマについては近隣の先生方からの希望を聞きたいと思っている。受付でアンケートを取るようにしたい。

●この場を借りて2点ほど述べたい。1点目は浜松市健康福祉部の板倉先生にがん両立

支援補助金事業について勧めていただいたおかげで研修会を2回開催することができ、感謝している。2点目は消防署について今年度はお膝元の東消防署のほかに中区、南区及び磐田市消防署に訪問した。特に磐田市消防署訪問後は同地域からの救急患者数が倍増した。今後とも地域性を考えて南区や磐田市南西部の開業医訪問や消防署訪問などの活動を強化したいと考えている。

- 地域の看護師と顔の見える関係を築くため、看護EASTを開催している。また、当院は勤労者医療に力を入れており、働く女性のための休日女性がん検診を年3回開催している。先生方の病院の看護師さん達にも勧めてほしい。
- 地域連携病診懇談会については、多くの先生方に参加してほしい。詳細が決まり次第招待の案内を送付する。

(注) 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

別紙9 患者相談の実績

患者相談を行う場所	相談窓口または相談室
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	MSW4名 看護師2名
患者相談件数	9,762件
患者相談の概要	
相談総数	9,762件
【内訳】	
(1) 健康相談(一般的な相談)	5,150件
(2) 医療行為・医療事故・情報公開	2件
(3) 診療報酬等の費用負担	276件
(4) 職員の対応、接遇	4件
(5) 病院の設備、人員、運営体制等	4件
(6) その他	4,326件
(6)の内訳	
関係機関(者)との連携、協力、調整援助	3,850件
保険制度等の説明、社会資源の説明、その他	476件
【対策】	
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、公的機関(役所等)や医療機関(医師、看護師、MSW等)、その他関係各所との調整を行い、問題が円滑に解決するよう対応を行った。 ・関係職員にて週1回定期的にカンファレンスを開催し、問題等情報の共有を図っている。 	

(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

別紙 10 その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する書類

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
<ul style="list-style-type: none"> ・評価を行った機関名、評価を受けた時期 <p>公益財団法人 日本医療機能評価機構による評価を受審</p> <p>交付日 平成30年5月 機能種別 一般病院2</p>	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の方法、内容等の概要 <p>ホームページ（平成30年度 105回更新） 広報誌（月1回 約600部） 市民公開講座（年2回）、市民向けセミナー等（年4回）、など、地域住民向けイベントを開催、適時情報を発信。</p>	

3 退院調整部門

① 退院調整部門の有無	有
<ul style="list-style-type: none"> ・退院調整部門の概要 ・看護師を配置（2名）し、MSW3名とも連携をとり、患者さんのニーズに即した退院調整を図っている。 ・定期的（週1回）に病棟とのカンファレンスを開催 ・平成30年度退院調整加算件数 2,024件（月平均 169件） ・介護支援連携指導料算定件数 242件 ・退院共同指導料算定件数 30件 	

4 地域連携を促進するための取組み

① 地域連携クリティカルパスの策定	有
<ul style="list-style-type: none"> ・策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 <ul style="list-style-type: none"> 静岡県西部広域地域連携パス 大腿骨近位部骨折部会 がん部会 ・地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> 静岡県西部広域連携パス委員会（2部会（脳卒中、大腿骨）年3回ずつ開催） 地域連携委員会（年12回開催、院内委員数15名） 	